

# 支局長 からの 手紙

「フランス人はたとえ読めなくても、英語版より日本語版を渡されるほうを好む」「というのも、フランス人は自国の言葉をもっとごく大切にしているからだ」

四国とヨーロッパを結ぶ活動をしている四国夢中人代表の尾崎美恵さんが最近、出版された「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋)。「なるほど」「へえ」と感心する内容がいっぱい詰まった本でした。

香川県をフランスにPRする際、行政機関に「これだけはぜひ」とお願いしたのがフランス語版の観光パンフレット作成。フランスは「自国の言語を守るというプライドが、国民すべての間で共有さ

れている」ためでした。丸亀市に住み3人の子どもを育て、1997年に43歳で大学院に入学しフランス語を勉強。2008年に四国夢中人を結成し、フランスで開催されたジャパンエキスポに出展したり、ヨーロッパからプロガー

を招くことで、四国の情報を発信したりと東奔西走の活躍をされています。

本はその舞台裏であった「喜怒哀楽」が軽やかな筆致で描かれ、国内外の多くの人

が活動の協力者として登場します。尾崎さんの「もっとも」と四国の良さを知ってほしい」という熱情。それが伝播し、周囲の人が動き出す雰囲気がよく伝わって来ます。

「四国って直島より知られてい

## 四国夢中人

ないんですよ」と本書を持ちながら話す尾崎さん。写真。本の中でも「フランス人の口から『直島』という地名は出て『四国』」

「動け。実践あるのみ。行動することに意味がある」。それを教えるために父がしたこととは：



「紹介していきなさい」と驚きでした。それにしてもなぜ、尾崎さんはこんなにもパワフルなのか。その原点を本書の中で見つけました。恐ろしいです。

「ちょっと『ひく』かも。本のタイトルとなったエピソードも読書の秋、お薦めの一冊。」

【高松支局長・玉木達也】